

令和7年度

横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、
ふだん農業に対して思っている
ことを作文、図画にしたものです。
ぜひとも、子どもたちの純粋な
気持ちを感じてみませんか。

目次 (Contents)

食農教育の推進に向けて	
作文の部	
最優秀賞	・・・ P 1
優秀賞	・・・ P 2 ~ 6
図画の部	・・・ P 7



横手市農業委員会

子どもたちの視点で見る食と農

私たち横手市農業委員会は、農業委員会等に関する法律や農地法等に基づき、地域の大切な農地を守り、農業が将来にわたり続くよう活動しています。また、地域の皆さまに農業の役割や大切さを理解していただくことも、重要な取り組みのひとつです。

その一環として、教育委員会と連携し、平成18年から横手市内の小学校5年生を対象に「横手食育見聞録 作文・図画コンクール」を開催しています。小学校では、「総合的な学習の時間」などを通して、農業に関する学びの取り組みが行われています。そうした中で、小学校高学年という感受性豊かな時期に、横手市の農業や特色ある農産物への興味・関心を育み、「食」と「農」のつながりについて考える機会として、本コンクールでは、作文や図画で表現する場を設けています。また、子どもたちが地域の農業に目を向け、将来就農するきっかけの一助

となることも期待しています。

本年度も、多くの作品が寄せられました。今回は、作文の部に108点、図画の部に175点の応募があり、審査の結果、各部門で最優秀賞1点、優秀賞5点が決定しました。優秀作品は農業委員会が表彰するとともに、広報誌「農業委員会だより」や横手市ウェブサイトへの掲載、市内公共施設での展示を通して広く紹介しています。

本作品集には、水稻づくりを引退した祖父が育てたお米の味とスーパーで購入したお米の味の違いを通して、祖父の思いや米づくりの大切さに気付いていく孫の姿を綴った作品や、市の特産品であるいものこづくりを家族で受けつぐ孫の視点から綴った作品など、地域の農業や家族のつながりを感じさせる力作を掲載しています。

この作品集を通して、地域の農業や食べ物 배경を身近に感じ、「食」と「農」のつながりについて改めて考える機会になれば幸いです。

令和8年3月 横手市農業委員会

最優秀賞

「じいじの米」

山内小学校

高橋 たかはし 露明 ろめい

ぼくの家では、ずっとじいじが作ったあきたこまちを食べていました。じいじは毎年春になると田植えをし、あつい夏も毎日田んぼの手入れをして、秋にはおいしいお米をたくさん収穫していました。

しかし、じいじは年を取り、体力がなくなってきたので、去年で田んぼをやめることになりました。ぼくは、じいじが毎年いっしょうけんめい働いているところを見ていたので、ちょっとさびしい気持ちになりました。

今は、スーパーでお米を買って食べています。スーパーのお米もおいしいですが、何かがたらないような気がします。それはなにか考えてみました。その理由は、じいじのお米には、家族においしいお米を食べさせたいというじいじの気持ちがいっていたからだと思います。じいじはこしが痛いと言いながらも、毎日田んぼへ通っていました。ぼくもいっしょに田んぼへ行ったことがあります。毎日通うのは大変だったと思います。きっと家族のためがんばっ



てくれたから、お米がおいしかったんだと思います。じいじは田んぼをやめてしまいました。ぼくはじいじのお米の味をわすれないと思います。これからは、スーパーで買ったお米も大事に食べようと思います。そして、じいじには「じいじの作ったお米が世界で一番おいしいよ。」と、伝えたいと思います。そしていっかじいじにお米作りについて聞いてみたいです。

優秀賞

「おうちで挑戦!!ぼくの横手やきそば」

横手南小学校

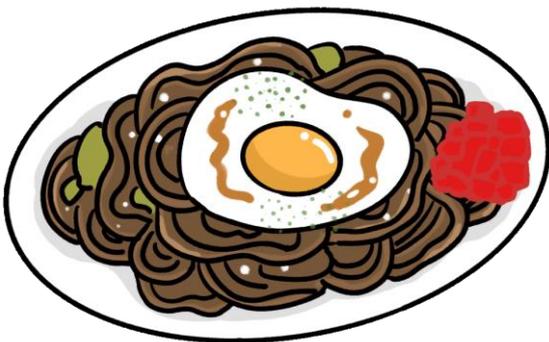
大内 創太
おおうち そうた

お正月前、親せきへおみやげを買いにお店に出かけた時、ぼくはあるものを見つけました。それは箱に入った横手やきそばです。今までお祭りの出店でしか食べたことがなかったので、おうちで作れることを初めて知っておどろきました。ぼくも自分で作ってみたいと思ってお母さんに買ってもらいました。

家に帰ってその日の昼ごはんにさつそく作ってみました。まずはキャベツを切りましたが、食べやすいように形をそろえて切るのがむずかしかったです。横手やきそばの特有的な太いめんとひき肉とたっぷりのソースをいっしょにいためると、お祭りの出店の時のようなあまいソースのおいがしました。ぼくが一番頑張ったのは目玉焼きです。きれいに仕上がるようにしんちょうに割ってふたをせず弱火でじっくり焼きました。お母さんからこうすると、黄身がきれいに焼けるよと教えてもらいました。最後にやきそばの上に目玉焼きと福神づけを乗せて家族みんなで食べ

ました。黄身をはしでつぶしてめんからめて食べると、最高においしかったです。

食べ終わってから、やきそばが入っていた箱をよく見ると「横手やきそばのルーツは、第二次世界大戦直後にさかのぼります。」と書いているのを見つけました。ぼくは横手やきそばは最近できたものだと思っていたので意外でした。約80年もの間、このおいしい味を受けついできた人たちがいると分かりもつと横手やきそばが好きになりました。今度は遠くに住んでいる親せきにも、この横手のおいしいやきそばをぼくが作ってあげたいと思いました。



優秀賞

「ひいおばあちゃんの作る果物たち」

横手南小学校

大隅 萌由 おおすみ きい

私のひいおばあちゃんは、りんごやぶどうを育てています。私は小さいころからひいおばあちゃんのお手伝いを土日休みや夏休み、冬休みに行ってりんごをいれるダンボール箱を組み立てたり、りんごやぶどうのしゅうかく、ぶどうが鳥にすぐ食べられないように、ふくろをかぶせたりといろいろなお手伝いをしています。

そこで1番印象に残ったことは、お手伝いしたあとのおいしかったりんごです。昨年の秋、りんごのしゅうかくをしていたときにおいしそうなりんごを見つけ、ひいおばあちゃんにもっていききました。そして食べていいかきくと、お手伝いが終わってからねといわれたので、いっしょうけん命に取って運んでのくりかえしでした。とつてもつかれていたけど、りんごのために、たくさんたくさん働きました。ひいおばあちゃんも父も母もおじいちゃんおばあちゃんも姉妹も。もう暑くもないじきなのに汗をたくさんかいていました。

お手伝いが終わってりんごを姉妹で1個ずつ大きな口で食べました。果汁がジューツとでてきてあまずっぱく、とてもとてもおいしかったです。みんな笑顔でキラキラと汗がかがやいていました。

私が農業のお手伝いをして思ったことは、農業の大変さと農業のほほ笑みです。1つ目は農業の大変さです。農業のほとんどは力仕事です。それなのに、農業をつぐ若手はあきらめずやっています。ですがひいおばあちゃん2つ目は、農業のほほ笑みです。農業はいそがしくもつかれるお仕事です。だけど自分たちが育てた、作った果物たちが喜んで買われるととってもうれしいのでみんな、笑っています。

最後に、何回もいうけれど農業は、大変な仕事です。でもおいしく食べてもらったら大変さなんてふっとんできうと思います。



優秀賞

「命をいただく大切さ」

吉田小学校

しばた ゆうたろう
柴田 侑太郎

ぼくは、家族で買い物に行ったとき野菜コーナーでレタスを根っこごと売っているのを見ました。ぼくは、それを見てなぜ根っこごと売っているのか不思議に思ったので、買って家に持ちかえってきました。説明には、「牛乳パックに入れて育てながら、必要な分だけ収穫して食べる」と書いてありました。そこで、家にあった牛乳パックの下の部分を使って育ててみました。

そしたら、二日後くらいには少し大きくなっていて、食べてみるととても新鮮でおいしかったです。そこでぼくは、食べ物にも命があるということを実感しました。なぜかというと、人間に例えると、日に日に身長がのびるからです。これと同じように、食べ物も種から成長して、ぼくたちが食べられるくらいのお大ききさになって収穫されます。だから食べ物にも命があると感じました。

また、スーパーに行ったとき、ぼくは以前から割り引きされている食べ物を、積極的に買っていききたいと思ってい

ました。なぜなら、誰も買わなかったら、次の日には捨てられてしまうかもしれないからです。そのまま食べ物の命をムダにするより、自分で買って食べたほうが、食べ物にとってもうれしいと考えたからです。ぼくは、食品ロスができるだけなくしていきたいと考えています。また、地産地消も心がけて、地域の農業を応援していきたいと思えます。

ぼくたち人間は、動植物を食べて栄養をもらって大きくなっています。これは、自分が生きるために、動植物の命をいただいているということなんです。だから、これからは動植物の命に感謝して食べていきたいです。

根っこごと売っているレタスから、ぼくは多くのことを学び考える事ができました。これからも、「食」について学び、考えていきたいと思えます。

レタスさん、ありがとう!!



優秀賞

「苗箱の重さが教えてくれたこと」

雄物川小学校

佐々木 望祐

私の家は米農家で、毎年春になると種まきや田植えの手伝いをしています。田植の時、私の役目は苗箱を運ぶことと、使い終わった苗箱を洗うことです。最初は、田んぼに苗を植えるわけではないので、あまり大変な仕事ではないと思っていました。しかし実際にやってみると、苗箱は思っていたよりも重く、何度も運ぶうちにうでやこしがいたくなりました。田んぼの周りはぬかるんでいて、足を取られそうになることもありました。また苗箱洗いでは、どろや根がこびりついていて、なかなかきれいになりませんでした。家族から「来年も使う大切なものだから、ていねいに洗おう」と言われ、後片付けも米作りの大事な仕事なのだと思いました。

毎年当たり前のように食べているご飯ですが、その一ぱいのご飯のために、種まきから田植え、そして多くの作業が続いています。私が手伝った苗箱運びや苗箱洗いも、その中の一つだと思うと、今までとはちがう気持ちでご飯を

見るようになりました。

これまでは、ご飯を残してしまうこともありましたが、それは米作りに関わった人たちの努力を無だにしてしまうことだと感じました。これからは、苗箱の重さを思い出しながら、一つぶ一つぶのお米に感謝して食べたいです。そして、食べ物を大切にする気持ちを、持ち続けていきたいと思っています。この経験は、私にとってわすれられない思い出となりました。



優秀賞

「家族で受けつぐいものこ作り」

山内小学校

ひらやま
平山 真莉 まり

私の家は、いものこ農家です。お父さんやお母さん、おばあちゃんとみんなでもいものこを育てています。春に種いもを植え、夏は暑い中で、草とりや水やりをします。そして秋に収穫の時期になります。土の中からたくさんいものこがでてくると、とてもうれしいです。私も、家族に少しでも手伝っているので、苦労した分だけうれしさが大きいです。収穫したいいものこは、出荷されてスーパーなどで売られます。スーパーにお買い物に行ったとき、私の家のいものこが売られていたのを見たとき、とてもびっくりしました。このように売られていて、たくさんの人に食べてもらっていて、うれしいです。

私はいものこを食べるのが大好きです。特に「いものこ汁」と「いものこの煮物」が好きです。おばあちゃんとお母さんが作ってくれます。いものこは、やわらかくてねばねばして味がいいです。最近は、「いものこチップス」が売られているのを見たので、とても興味をもちました。私も、

いろんなメニューに挑戦してみたいと思いました。私の家のいものこ作りは、もともと私のおじいちゃんが始めたものです。おじいちゃんが長い間、ていねいにいものこを育て、たくさんのお賞をもらっていました。しかし、おじいちゃんは一昨年亡くなりました。今は、その思いを受けつぎ、家族でいものこを育てています。いものこは、横手市の秋の味覚として親しまれています。ずっと続いてほしいと思っています。



第20回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品



【最優秀賞】大森小学校 ^{すずき めりあ} 鈴木 愛璃杏 「いね刈りの仕方」



「思い出のりんご狩り」

【優秀賞】横手南小学校 ^{ささき しゅう} 佐々木 珠羽



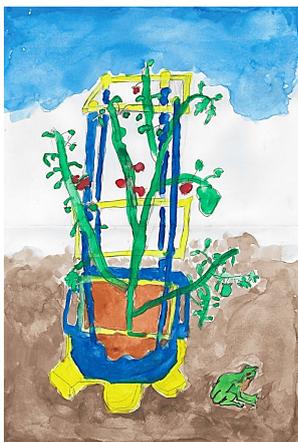
「手からつながるわたしたちの食卓」

【優秀賞】雄物川小学校 ^{さとう りん} 佐藤 凜



「私のおにぎりができるまで」

【優秀賞】雄物川小学校 ^{しもふさ ゆい} 下総 唯



「庭で育てたミニトマト」

【優秀賞】横手南小学校 ^{てらた こうたろう} 寺田 耕太郎

「田んぼからごはんまで」

【優秀賞】雄物川小学校 ^{みやた いちる} 宮田 壱琉

